

La vie est belle?

from paris #8

アトリエや棲み家からのぞき見る、アーティストたちのちょっと素朴な生き方。

取材・文・撮影 ● 寺尾 恵 銅版画家 TEXT・PHOTO by Megumi Terao METS

Megumi TERAO



サロンから空が見られる幸せ。上階の本棚がチラリと覗く。

サロンに続く螺旋階段は見える収納。



懐かしい温もり。愛があるなあ。



約17m<sup>2</sup>のアトリエ。モビールの製作模型がそのままインテリアに。



モンマルトル サクレクール寺院からすぐの坂道、38番地。



入り口の呼び鈴。まさに一軒家感覚だ。



アパートマン外観。実は最上階まですべてマリアン邸。

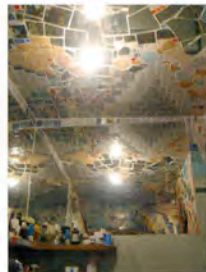
## 作品も環境も、それはひとつの物語。

### Mary-Ann BEALL

マリアン・ベアール

パリのアパートマンは、ホント外から見ただけではどうなってるのかさっぱり分からない。マリアンの自宅兼アトリエは、まさにそれだった。外観は日本式に言う4階建のアパートマン。中に入ると、そこは全てマリアン邸。玄関を入ると約17m<sup>2</sup>のアトリエ。ネコも行き来する螺旋階段を上ると作品に彩られたサロン&キッチン、その上は寝室&旦那様の書斎、その上は15歳になる愛息子の部屋という、敷地は狭いけれども、なんとも楽しく、もっともパリでは珍しいつくりの家でありました。出迎えてくれたマリアンは、絵画、モビール、壁画などを手掛け、建築家とのコラボレーションの仕事が多い、フランス人の母とアメリカ人の父を持つフランス生れの多才なアーティスト。祖父母も両親も建築家、ファッショデザイナー、文筆家、画家、彫刻家などの肩書きを持つ、いわゆる芸術一家に育った。「何をしても比べられる。家族自体が大きな壁

まだ未完成のバスルームの傑作モザイク。鏡や小さなかわいい仔や人形も埋まっていたりする。



キッチンのマリアン作モザイク。配色のセンスが絶妙である。

だったわ。アーティストとして自分というものを出していくのにはなかなか大変だったのよ。」人も羨む環境にも様々な苦労が。しかし、知らず知らずのうちに高いハードルを越えて来たと思われる彼女のアートのピリツは、見事に昇華している。様々なマテリアルを自由自在に扱い、表現の幅の広さに驚かされる。「見るだけのアートは好きじゃない」そんな感覚も、スペシャルな環境からもたらされたものに違いない。

サロンやアトリエのそこにモビールが揺れ、自由なカタチの絵が佇み、貝殻や鏡がまざったオリジナルなモザイクが遊んでいる(自作モザイクオンパレードのバスルームは圧巻!)

触つて楽しむ作品、お決まりの額に入っていないフレキシブルで風通しのいい作品がレイアウトされていてとても居心地がいい。そしてじっと眺めていると気になる形が見えてくる。そう、(葉っぱ)である。目にも口にも見えるし、女性のセックスの形にも見えたりもするユニバーサルな形の葉は、彼女の大好きなモチーフ。「季節で色が変わったり、ピンとなくなったりくっつきたりもするでしょう。小さい頃、よく綺麗な葉っぱを拾ったわ。」と彼女。自然はもろろん動物も、やはりアイデアの源だ。

2003年末から始まったプロジェクト



感覚すべてで楽しめる作品が好き、と語るマリアン。

部屋を示す、遊びゴコロいっぱいサインボード。

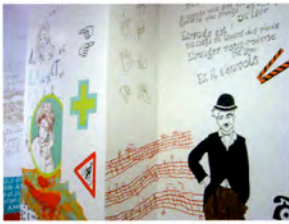


マリアンいわく「大きな学べる本」のような壁画プラン。



アトリエの机の上は、いつもスタンバイOK!

制作中幼稚園のエントランスには、鳥や葉っぱが舞う。時空を超えて物語の中にいるような感覚に。



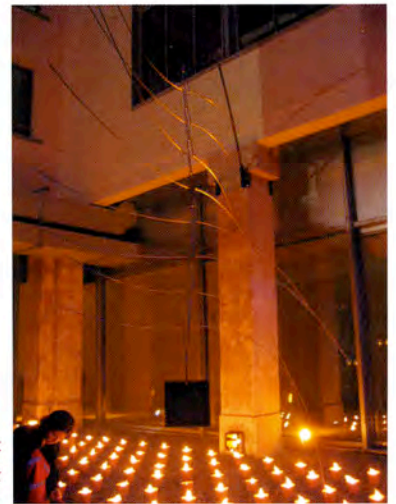
紀元前から現代までの伝達コミュニケーション方法をデザインした小学校エントランス。

様々な言語や記号は素敵なメッセージ。小学校のエントランス。



この日本語、テラオの手書き文字をベースにマリアンが壁に描いてくれたもの。bravo!

今年2月、バステュー メゾン・ルージュで行われたDiorのパーティのためのインスタレーション。コンセプトは〈無限としてエレガンス〉。高さ4mのモビール。



クトで現在進行中のパリ郊外の幼稚園 & 小学校の壁画の仕事でも、自然や動物はいろんな場面で登場している。彼女の表現する世界は、音があり詩があり肌合い感があり、形のないものをも感じさせる強い力があるような気がする。だから、彼女が描いた動物の壁画に、思わず子供がキスをした、という何とも可愛いエピソードを聞いた時、膝を打ちたくなる程うなずきました。さらにこのプロジェクトで言えば、教育というこの意味を子供達とともに考えていけることが十分に考慮されているところが素晴らしい。伝達コミュニケーション方法の歴史を追ったいくつかの壁画の説明を聞いていたら、その情熱にビビビと鳥肌が立った。「この小学校のエントランスは、大きな学べる本、みたいなものね。」と目を細める彼女。この学校のオープンは今秋。その日、初めて足を踏み入れる子供達は、どんな顔を見せるのだろうか。

そしてこの仕事を終え今年10月には、80歳になる母とマリアン、そして同じくアーティストである二人の姉とともに母へのオマージュを込めて皆で展示会を開く予定とか。悩んだ時代は、とうの昔。それぞれが炸裂する、素晴らしい展示会になることであらましよう。

La vie est belle?  
パリのエスプリ  
のぞき見ランプリング

CONTACT

Mary-Ann BEALL tel. +33 (0)6 71 21 16 15  
mabealicantero@wanadoo.fr 英語、仏語可。  
http://perso.wanadoo.fr/mary-ann.beall  
※作品はもとより、インテリア関連の実例も見ることができます。



メトロの切符で出来る首飾り。愛息子アルチュールからのプレゼント。

